



湊の風

八戸市立湊中学校
学校通信 第3号
平成28年1月21日
文責：田中芳和

感謝感謝で、また感謝 ～支えていただいているたくさんの皆様に敬意を表して～

校長 北山 勝則

先日の久しぶりの銀世界は、交通渋滞やスリップ事故を招き、中には停電や交通麻痺まで引き起こしていました。さぞかし不自由な生活を強いられていたことと思います。東北では、3.11の記憶を風化させてはいけなくて様々な取り組みが行われていますが、自分自身が知らず知らずのうちにあのときの記憶が薄れてきています。食べられる喜び、暖を取れる感謝、夜でも光があるありがたさなど、「当たり前が当たり前じゃない」ことを暗闇で光るロウソクの炎を見つめながら全身で味わった5年前でした。自分が、便利社会のぬるま湯に浸かりきっていることに気づかされる大雪でした。児童生徒のために、早朝から雪片付けをしていた方々へ、感謝。

昨年度は、町内会長さんたちのご厚意によりスポットライトを購入することができたのですが、今年は、体育祭や文化祭で、PTAやPTAのOB、そして地域の方々が主催する売店の収益金のお陰で、フットライト2本、体育館ワイヤレスマイクチューナー、ピンマイクが購入でき、さらに、残額を生徒昇降口から市道までの通路のイルミネーションの一部とさせていただきます。12月から16時～19時の時間帯で青と白のライト2,100灯が点滅しています。生徒にその日の学校生活の終わりでホッとしてもらうのが目的です。特に、受験勉強で疲れている(?、よね!)3年生の心を癒やせればと考えています。たくさんの方の努力のおかげで、さらに生徒が活動まじやくなりました。感謝。

12月に『インターネットトラブル防止』に向けた3つの提言」というリーフレットが保護者へ配布されました。内容は、①携帯電話やスマホを所有させない、②ゲーム機等にフィルタリングをかける、③ルールを設定する、でした。現在、インターネ



ットがらみの問題が多発しています。悪口・脅し・嘘・勝手に写真を公開等の被害、深夜までの使用による体調不良や無気力状態、なりすました相手からの高額請求やゲーム上の通貨やアイテムの盗難、呼び出しに応じた相手に騙されての恐喝や性的暴行など、被害が八戸でも多数発生し、湊中生にもいくつか該当しています。携帯電話やパソコンだけでなく、音楽プレーヤーやゲーム機でも可能なのでとても厄介です。今、市内すべての中学校で生徒会が中心となり、生徒が考えたルール作りをしています。これを生徒会長が持ち寄り、「時間に関すること」と「言葉の使い方」について市内中学校の共通提言を決める予定です。湊中でも先日全校アンケートを元に話し合いが行われました。生徒会役員の司会から意見を求められると、堂々と自分の考えを述べる生徒はもちろんのこと、真剣にその話を聞いている湊中生の意識の高さに感謝。ぜひ、保護者も「まさか我が子が」とならないためにご協力をお願いします。



来年度は、湊中の創立70周年です。協賛会を立ち上げて、地域から寄附を募り、学校施設の充実を図る予定です。湊小の140周年が終わった直後なので、寄附については消極的に考えていましたが、地域の方々からの力強い言葉や湊中を思う熱い気持ちに触れ、感激。中心になって動いて下さる地域学校連携協議会委員、地域の団体長、町内会長、民生委員児童委員などの皆様に感謝。

文化祭のときに、1年生が『湊魂』をテーマにステージ発表を行いました。メインは、艦(ろ)こぎ歌で入場し、潮風を漂わせる沖揚音頭と迫力満点の踊りを付けたソーラン節です。これを教えてくれたのが、湊沖揚音頭保存会の「男組」の皆さんで、8年間も継続し

て指導してくれています。地域の無形文化財を中学生に学ばせるのは、きわめて重要と考えています。お忙しい中、仕事を休んでまで来校いただいた男組の皆さんに、感謝。

来年度、男子ソフトテニス部と男子バスケットボール部の活動を再開します。4年前に、子ども達の安全確保のためには1部活につき2名以上の顧問が必要と考え、4つの部の募集を停止しました。しかし、現状は、サッカー部と陸上競技部男子が過人数となり、生徒指導やプレイタイムの観点で問題を抱えています。

『あなたに贈る花束』

三年 小田 栞



あなたは誰かに温かい言葉をかけられたことがありますか?温かい言葉をかけられたら、どんな気持ちになりますか?

私には、同居している叔父がいます。父の弟で、私がまだ小さい頃から面倒をみてくれた、寡黙で優しい叔父です。ある日、仕事から帰って来た叔父は、私に一通のメールを見せてくれました。そこには「誕生日おめでとう」という言葉がありました。最近会えていなかった親戚からのお祝いメッセージ。その日の叔父は、仕事の疲れが吹き飛んでしまったかのように嬉しそうでした。一通のメールで、人をこんなにも喜ばせることができるのか、と私は驚いてしまいました。

でも、インターネットの社会では、いつも人を幸せにする言葉ばかりが飛び交っている訳ではありません。ネット上の書き込みや、LINEによるいじめの事件が後を絶たず、「死ね」や「ウザい」などの暴言がつつらわれています。そのどれもが、私と同年代の中学生、高校生の言葉なのです。

私が通うクラスでは「頑張ろう」「一緒にやってみよう」などの思いやりのある言葉をお互いにかけているように思います。その一方で「Aさんはキモい」「B君の態度がムカつく」などの悪口や、じゃれ合いからいじめに発展しそうな行動もあります。そして、私自身も悪口を言ったり、そのやり取りをとめられないままです。また、いじめでなくても、傷ついたり、傷つけたりしてしまった経験もあります。



そこで、顧問人数より男子生徒の活躍の場を設定することを優先し、新しい種目は不可能ですが、現在女子部が活動しているところの男子部の活動なら再開できると考えました。入部資格は、基本的に現1年生(話し合いの上、転部可)と新1年生と考えています。自分のこの判断に対し、同意してくれた湊中の先生方に感謝。

今年度の防犯弁論大会に、湊中代表で参加した小田さんの弁論がすばらしかったので、紹介します。

私は小学生のとき、友達に「しおり」という、この自分の名前をいじられたことがあります。今なら冗談だったと分かりますが、当時の私にとっては大変なショックで、自分を否定されたように感じ、何も言えなくなりました。友達はすぐに謝ってくれましたが、このことで私は、冗談でも人は傷つく問うことを学びました。また、自分が言った冗談で、誰かを傷つけてしまったことがあるのでは、という罪悪感も味わいました。

悪口は、友達と一つの楽しい話題で盛り上がるように、どんどん大きくなっていきます。それが終わり、一人になると、自分も陰で悪口を言われているのではないかという不安、恐怖がのしかかってきます。それを紛らわせるために、今度は別の人の悪口を言うてしまうのだと思います。この悪口の連鎖は、まるで麻薬のようです。それならば、悪口より人が喜ぶ言葉を使うほうが、ずっといいです。

人が喜ぶ言葉は、人と人をつなぎ、温かい気持ちにさせてくれる、花束のようなものです。「元気を出して」「大丈夫だよ」という励まし、そして「おめでとう」や「ありがとう」。それが、一つの花束のように、相手を幸せな気持ちにさせるのです。

悪口や暴言でなく、幸せな気持ちにさせる花束のような言葉をあなたに贈りたいです。「頑張ってるね」「上手だね」「すごい。流石だね」そして、あなたもまた別の人に贈る。そうすることが、温かい社会をつくっていく、第一歩になるのではないのでしょうか。あなたも誰かに、言葉の花束を贈ってみませんか。